

リトアニア政治・経済月間情勢(5月)

概況

- ベサイテ経済相の解任の政権運営への影響が注目される。
- 7月からのEU議長国に向け、大統領、首相、外相の外国訪問及び欧州各国からの要人来訪が相次ぎ、議長国ロゴも発表され、議長国準備が佳境に入った。
- 念願であったOECD加盟への道が開けたことに政府関係者は歓迎の意を表明。
- リトアニア投資セミナーの開催等、日・リトアニア経済関係強化のための双方のイニシアティブがとられた。

内政

【4日】プトケビチュウス首相が社会民主党党首へ再選された。バルチャーティス欧州議会議員が立候補を取り下げたため、無投票での再選となった。

【9日】シャウレー地方検察は、行方不明となっているベンツキエネ「勇気ある道」議員の捜索開始を発表。同党筋は、同議員は米国に滞在し、政治亡命を準備中と報じる。

【9日】ベサイテ経済相はルカウスカス・エンタープライズ・リトアニア長官を解任し、経済界から批判が続出。21～23日、同大臣はカザフスタンでの会合出席に際して民間チャーター機を使用し、公私混同と批判され、野党は倫理委員会に調査を要請。27日、グリボウスカイト大統領はプトケビチュウス首相と会談し、同大臣の行為は政治汚職として、解任を要請し、首相も同意。31日、社会民主党はグスタス前内務省次官を候補に指名し、同氏も了承。

【14日】労働党は労働者党との合併による新党「労働党(労働者党)」を登録した。

【20日】来年の大統領選で誰に投票するのかとの調査で、グリボウスカイト大統領が41.1%で1位、次いでプトケビチュウス首相の20.3%との結果。

【20日】パクサス秩序と正義党党首は、連立与党に対し弾劾された人の公職復帰に関する法改正審議を先延ばししないよう公に要請。

【22～23日】Delfi電子ニュースが欧州歌謡選手権でロシア出場者に票買いがなされたと報じたことから、同サイトにサイバー攻撃が発生。EU議長国を控え、サイバー攻撃対策に関する議論が高まる。

【27日】支持率調査で、プトケビチュウス首相の支持率は低下し、グリボウスカイト大統領に抜かれ、社会民主党の支持にも陰りが見え始めた。

【30日】ビリニュス裁判所は、ロシアでのテロ行為を企画した容疑で、24歳のクサイト被告に対し、懲役10ヶ月の判決。

外交

【1日】オレカス国防相は、リトアニアのEU加盟9周年記念声明を発出し、EU議長国期間中に安全保障分野でのEUの役割強化を強調。

【2～3日】外務省は全在外大使会議を開催。グリボウスカイト大統領は、経済外交、エネルギー安全保障、EU議長国を重視するよう訓示。

【2～3日】野党祖国同盟の招きでロシアの野党代表団が来訪。3日にはリンケビチュウス外相と会談し、ロシア情勢及びEUとの関係を協議。

【9日】グリボウスカイト大統領は、アーヘンでのカール大帝賞授与式に出席。受賞後、大統領はこの賞はリトアニア全体への評価と強調。

【9日】リンケビチュウス外相は英国でヘーグ外相と会談し、EU議長国期間中に英国の指摘するEUの課題解決に取り組むと発言。

【10日】グリボウスカイト大統領はリトアニアのEU議長国ロゴを発表。ロゴは、欧州の統合、加盟国間の協力、課題克服能力を3色とバルト海とEU旗青色縞を使っている。

【13～14日】グリシチェンコ・ウクライナ副首相が来訪し、ブトケビチュウス首相及びリンケビチュウス外相と会談。ティモシエンコ前首相の動向やEU・ウクライナ連合協定等について協議。

【13日】スルタノグルUNDP総裁補がブトケビチュウス首相と会談し、UNDPの当国での活動終了を説明。

【14～15日】ニーニスト・フィンランド大統領が来訪し、グリボウスカイト大統領と会談。2国間関係、北欧バルト協力、エネルギー問題、EU議長国等を協議。両国ビジネス・フォーラムも開催された。両大統領とも原子力の有益性に言及。15日、クライペダでフィンランド企業が建設した熱併給火力発電所の開所式に両大統領が出席。

【15日】ブトケビチュウス首相は、仏でエロー首相と会談し、2国間関係、EU議長国等を協議し、OECD加盟への仏の支持を要請。

【15日】リンケビチュウス外相は、欧州委員会がウクライナが必要条件を満たせばEUとの連合協定署名は可能との提言を歓迎。

【16日】ブトケビチュウス首相は、訪問中のネチャス・チェコ首相と会談し、2国間関係、国際場裏での協力、EU議長国の優先課題等を協議。両首相は経済フォーラムへも出席。

【17～18日】グリボウスカイト大統領は、ジョージタウン大学の名誉博士号受領のため訪米。ベイナー米下院議長、議会関係者や経済人と会談し、リトアニア・米国ビジネス評議会の設立総会に出席。大統領は、米国からのガス輸入に期待を表明した。

【19～22日】リンケビチュウス外相はパレスチナ及びイスラエルを訪問。パレスチナではマーリキー自治政府外務庁長官と会談し、イスラエルではペレス大統領、ネタニヤフ首相等と会談。中東和平、地域情勢、国際場裏での協力等を協議。

【27日】イルベス・エストニア大統領が来訪し、グリボウスカイト大統領と会談し、2国間関係、EU議長国の課題、エネルギー等を協議。ピサギナス原発に関して、イルベス大統領は、良い提案であれば実施すると発言。28日、レインサル国防相とオレカス国防相との間で、秘密情報保護協定に署名。

【27日】リンケビチュウス外相はEU外務理事会へ出席。ヤーノシュ・ハンガリー外相と会談し、両国関係、リトアニアのEU議長国の課題等について協議した。

【29日】ブトケビチュウス首相は独を訪問し、メルケル首相と会談し、2国間関係、EU議長国の課題等を協議。メルケル首相はリトアニアのユーロ導入を支援すると発言。

【30日】ビリニウスでPRT-16の帰還式典が開催され、オレカス国防相、白石大使他が出席した。

【30日】シュルツ欧州議会議長及び幹事会一行が来訪し、グリボウスカイト大統領と会談し、次期多年度予算、経済・失業対策等を協議。大統領、シュルツ議長及びレディング欧州委員会副委員長は、欧州市民に関する討論会を実施。

経 済

【17日】当国訪問中のシェメタ税制等担当欧州委員は、リトアニアは金融取引税を導入すべきで、銀行同盟にも参加すべきと発言。ブトケビチュウス首相は、その導入による影響分析結果をまず得たいとコメント。

【22～23日】グリボウスカイト大統領は欧州理事会へ出席し、欧州経済の成長には共通エネルギー政策、脱税防止の協力強化が重要、次期財政枠組のエネルギー関連予算50億ユーロを早期に活用するよう提案。

【23日】中央銀行は、今年のインフレ率予測を2%、経済成長率見込を2.8%へ各々下方修正。成長率鈍化は収減に繋がり、財政赤字拡大が懸念される。

【29日】リンケビチュウス外相は、来訪したモレイラ欧州議会国際貿易委員会委員長と会談し、EU議長国間の優先事項として、東方パートナーシップと日米等の戦略的パートナーとの経済関係強化を強調。

【30日】OECD閣僚理事会で、リトアニアは2015年加盟手続開始に向けて協力関係を築くことが決定。リンケビチュウス外相他はOECD加盟に道が開けたと歓迎。

【30日】グリボウスカイト大統領は2014年3月のハーグでの核セキュリティ・サミットへの招待状を受領。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【2日】メイルーナス駐日リトアニア大使は、日本側は、ビサギナス原発計画についてリトアニア側の決定を待っている、日本の新政権は原子力輸出に積極的で、日本政府からの支援が期待できると発言。

【2日】アンシブ・エストニア首相は、ビサギナス原発建設には新たな国民投票で賛成が必要と発言。

【3日】ネベロビッチ・エネルギー大臣とメドベージェフ・ガスプロム副社長は、ガス供給契約に関する交渉を実施。プトケビチュウス首相は、進展はなかったが交渉自体は建設的であったと評価。

【8日】プトケビチュウス首相は、バルト地域のエネルギー見通しに関する会合で、ビサギナス原発計画について、発電価格は競争力を持たず、継続には改善や条件の追加、地域パートナーとの交渉が必要と発言。(白石大使出席)

【9～10日】エッティンガー欧州委員(エネルギー担当)が来訪し、グリボウスカйте大統領、プトケビチュウス首相、ネベロビッチ・エネルギー大臣と会談。同委員はエネルギー分野のEU議長国優先事項を支持すると発言。

【17日】エッティンガー欧州委員(エネルギー担当)は、バルチャーティス欧州議会議員の質問に対し、当国のLNGターミナルにEU支援は可能と回答。

【30日】プトケビチュウス首相はリガでのバルト3国首相非公式会合に出席し、エネルギー、運輸プロジェクト等を協議。ビサギナス原発計画について、3国首相は事業者レベルでの協議を継続することに同意。

【30日】国会でシェールガス採掘改正法案が可決。条件は強化されたが、米シェブロン社との当国西部でのシェールガス調査契約締結が可能となった。

日本との関係

【1日】リトアニア訪問中の松山外務副大臣は、カウナスで杉原記念館及びビタウタス・マグヌス大学アジア研究センターを視察。

【2日】白石大使はビリニュス大学アジア研究センター創立20周年記念事業のアジア映画回顧開会式に出席し、挨拶を行った。

【4～5日】ゴールボールのリトアニア国際大会がトラカイで開催され、日本チームは7位。

【4～5日】ビリニュス市内の杉原パークの桜が満開となり、多くの市民が花見に出かけた。5日、グリボウスカйте大統領も視察。

【8日】JETROロンドン事務所でJETRO及びインベスト・リトアニアの共催により、日本企業向けリトアニア・ビジネス・セミナーが開催。日本企業関係者約30人が出席した。

【8日】三菱東京UFJ銀行とインベスト・リトアニアがセミナーの共同開催などを行う業務提携に関する覚書を締結。

【8日】白石大使公邸で、当国での桜の植樹・維持管理に尽力した日リトアニア友好協会会員の橋本稔氏に対する在外公館長表彰式を実施。ミクティエーネ・リトアニア日本友好議連会長他24名が出席。

【10日】白石大使はビタウタス・マグヌス大学アジア研究センター主催の東アジアデーに於いて、日EU及び日リトアニア関係等について講演を実施。クプチンスカス・カウナス市長をはじめ約30名が聴講した。

【10日】当館はドリスキニンカイのアドギミモ中学校で生け花デモンストレーション・ワークショップを中心とした教育広報事業を実施し、約80名が参加した。

【14日】当地経済紙は日本との経済関係の特集記事を掲載し、日EU・EPAの重要性、8日のロンドンでのセミナーの紹介を含め、経済関係強化の動き、有馬JETROロンドン所長のコメント等を掲載。

【18日】市内広場で合気道紹介イベントが行われ、白石大使出席。

【23～24日】当館はビリニュス大学、ビタウタス・マグヌス大学、ミコラス・ロメリス大学と共催で書道家・岩崎冬僊氏による書道レクチャー・デモンストレーションを実施し、学生等約100名が参加。ミコラス・ロメリス大学では、今年2月のアジアセンター開設行事の一環として盛大に行われた。

【25日】白石大使が名誉顧問となった孤児支援のための慈善事業「ブキメ・カルトゥ」が郊外のリゾートで行われ、当館より折り紙や書道を披露した。

【27日】白石大使はビリニュス大学国際関係・政治学研究所の修士課程の学生17名に対して、「Organization of Japanese Diplomacy」をテーマに講演。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。